

2017/2/13

## 柏の景気情報（平成29年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成29年1月分）

○ 調査期間 : 平成29年1月24日 ~ 平成29年2月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	78	50.0%
建設	44	21	47.7%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成29年1月の調査結果のポイント】

### 《業況DIはやや悪化に転じる。先行きは依然として不透明感強く、横ばい圏内の動き》

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲16.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲33.3)、建設業▲23.8(同▲16.6)である。

【建設業】からは、「建築業界では「リノベーション」というキーワードで、リフォームを喚起する動きが高まってきている。また、新築住宅については、ZEH(ゼロエネルギーハウス)を2020年までに50%以上にするという気運がある。新たなリフォーム需要の創出やCO2削減が期待できるが、市民への認知度は未だ高くないため、ギャップを感じている。」(一般土木建築工事業)、「昨年4月より電気を東京電力から東燃ゼネラルに変更したため、冬期の電気代がかなり減少し、コスト削減に繋がった。」(内装工事業)、「当社は地域ブランドとして努力し、その結果が徐々に現れてきたように感じられる。小規模な工務店だが、昨年はモデルハウスを造るなどして、1年を通してステップアップする事を目指している。」(一般土木建築工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「月毎の売上にバラつきがあり、設備投資のターゲットが定められない状況。」(印刷業)、「医療機関向けの建材受注が好調。」(特殊産業用機械製造業)、「前年度の1月の売上を比較すると、今年はわずかに増加したが、これからはどんな景況になるかは予想できない。景気の乱高下の波に飲み込まれないように注意したい。」(印刷業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「大型店出店の影響がジワジワと来ている印象。アパレル関連の低価格化が益々進んでいる感がある。昨年並みの業況を維持するのが精一杯で、衣料品関連の業況はかなり良くない。冬物在庫はかなり残している模様。」(婦人・子供服小売業)、「昨年より正月2日開店の人が減少している。そごう柏店撤退後、元日営業は家電量販店のみになったが、やはり人出は少なかった。大手デパートなども三が日の休業を検討する動きがある事から、年末年始の営業のあり方を考え直す時期に来ているように感じられる。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「毎年正月の雰囲気も薄くなってきている中、初売りは昨年比較で9掛け強と伸び悩む。福袋の売上は前年の7掛け程度となり、人出もまばらな状況となった。中旬以降寒波到来も、衣料品の処分期のため売上も伸び悩む。逆に春物衣料は動き出している。食品も年始のご馳走メニュー需要は減少傾向で、大型バックなどは売上ダウン。成人の日を合わせた3連休も松の内と週末がつながったために購買意欲も減少した結果となる。」(その他の各種商品小売業)、「青果物の状況は、産地から寒波による生育不足や冷え込みが続き、入荷減少しているため、高値取引となっている。消費動向は、鍋物や季節的な行事の節分など、スポット的な需要も出てきそうな状況で、色々な情報を集めながら集荷と販売に力を入れていきたい。」(食料・飲料卸売業)、「パート人件費の上昇は大きく経営に影響してきている。雇用条件の改善や働き方の考えを変えなければならなくなってきている。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「4月より新規案件の受注があり売上は大幅増の見込み。ただし従業員が増える見込みで、売上回収が一ヶ月先で人件費は先払いとなるため、資金繰りが大変である。新学期の需要が活発になってきた。」(その他の飲食料品小売業)、「建設関係は業績が好調で職場旅行の実施希望があるものの、業務をストップできずに実施を見送りする企業もある。職場旅行において、チームビルディングや宝探しなど、社員コミュニケーション強化に資するプログラム導入を検討する企業が増えている。年度末決算企業で、業績見込みめどがついた企業においては、次年度案件の引き合いが活発になってきている。」(旅行業)、「年度末の受注案件を消化中だが、あくまで短期的なものだと判断している。来年度の事業計画を立て直す時期にあると考えている。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

#### ◎原油高・為替変動

各業種より、「為替変動により、採算に影響が出ている。」(織物業)、「アメリカのトランプ政権による原油価格の変動や、それに伴うインク・紙などの値上がり等への影響が懸念される。」(印刷業)、「直近では円安と原油高の影響が懸念される。海外情勢の先行きが不透明。」(酒類製造業)、などのコメントが寄せられた。

#### ◎仕入価格高騰

各業種より、「ステンレス材料の価格が高騰しており、機械の原価率への影響が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「原料の急騰により売値とのバランスが保てず、薄利傾向にある。取引先からの発注も市場相場の様子見て控える状況が見受けられる。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格は前期に続いて少しずつ値上がりしている。不動産の需要は多少はあるが、問い合わせから契約までの時間が長くなっている。土地と低価格のマンション、中古住宅がよく動いている。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

#### ◎受注単価減少

各業種より、「見積もり依頼は多いが予算が厳しい。品質保持に苦心している。」(電気工事業)、「大口顧客の原価低減や、転注などもあり売上が減少。」(一般産業用機械・装置製造業)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
見通し	▲14.1	▲9.5	±0.0	▲28.0	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。

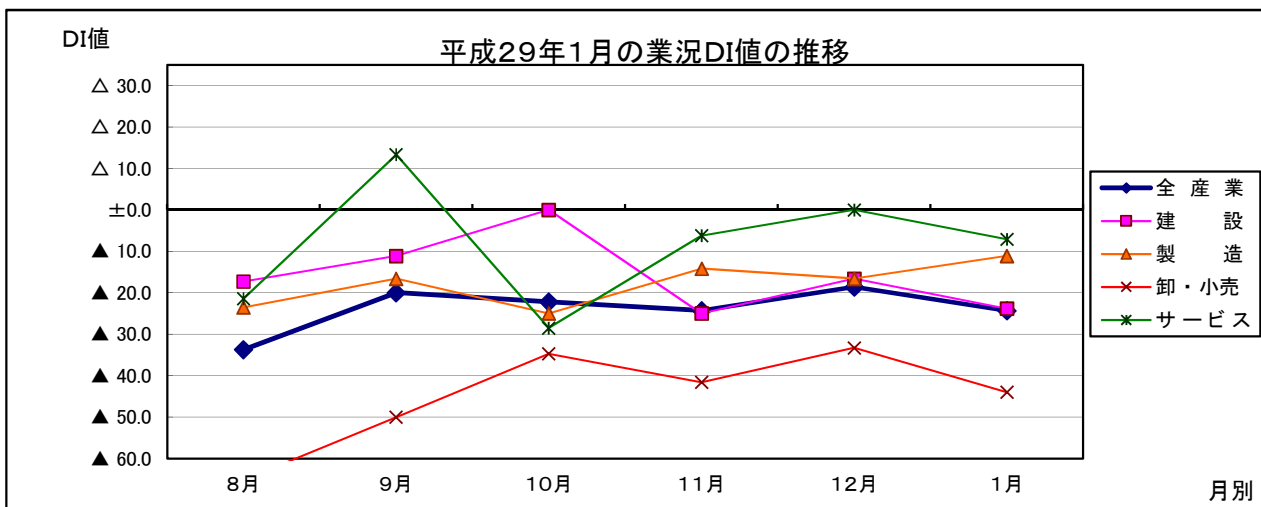
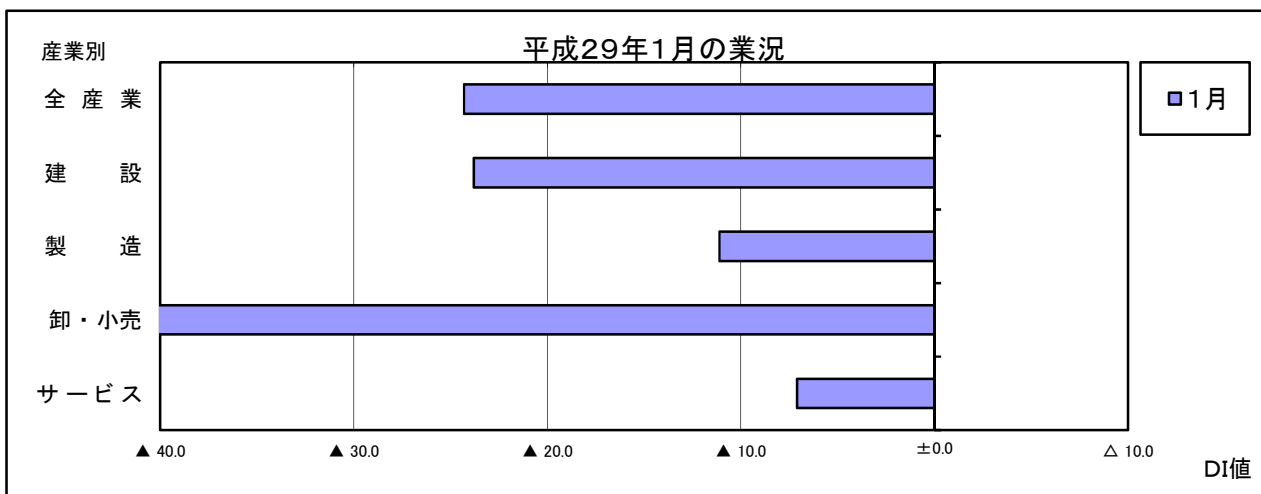
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲16.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲33.3)、建設業▲23.8(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.1(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲9.5(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲6.6)、卸小売業▲28.0(同▲25.0)である。

平成29年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲33.7	▲20.0	▲22.2	▲24.3	▲18.6	▲24.3	▲14.1(▲18.6)
建設	▲17.3	▲11.1	±0.0	▲25.0	▲16.6	▲23.8	▲9.5(▲16.6)
製造	▲23.5	▲16.6	▲25.0	▲14.2	▲16.6	▲11.1	±0.0(▲22.2)
卸・小売	▲65.2	▲50.0	▲34.7	▲41.6	▲33.3	▲44.0	▲28.0(▲25.0)
サービス	▲21.4	△13.3	▲28.5	▲6.2	±0.0	▲7.1	▲14.2(▲6.6)



【平成29年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.2(同▲8.0)であり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

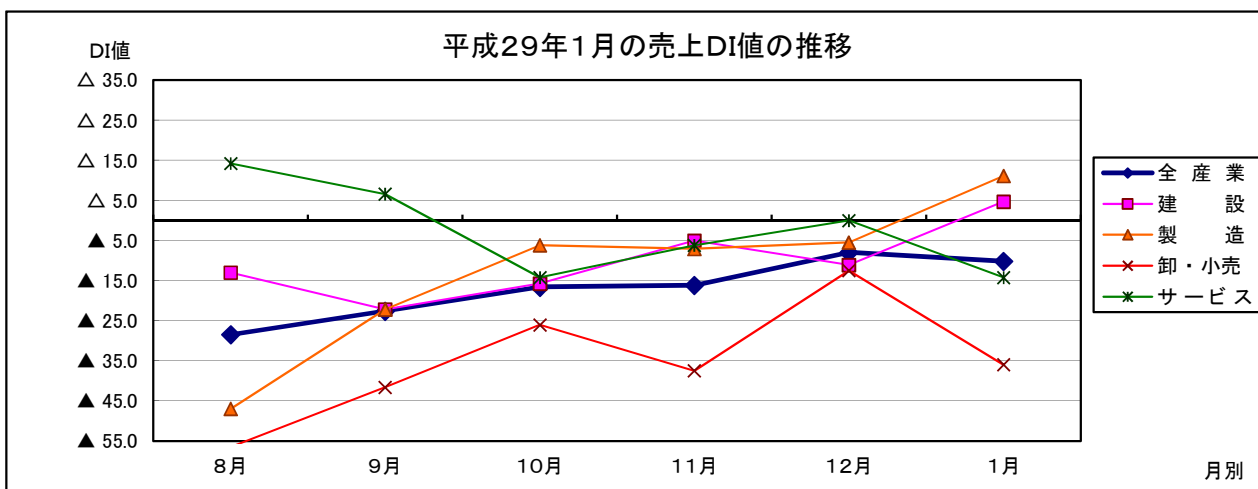
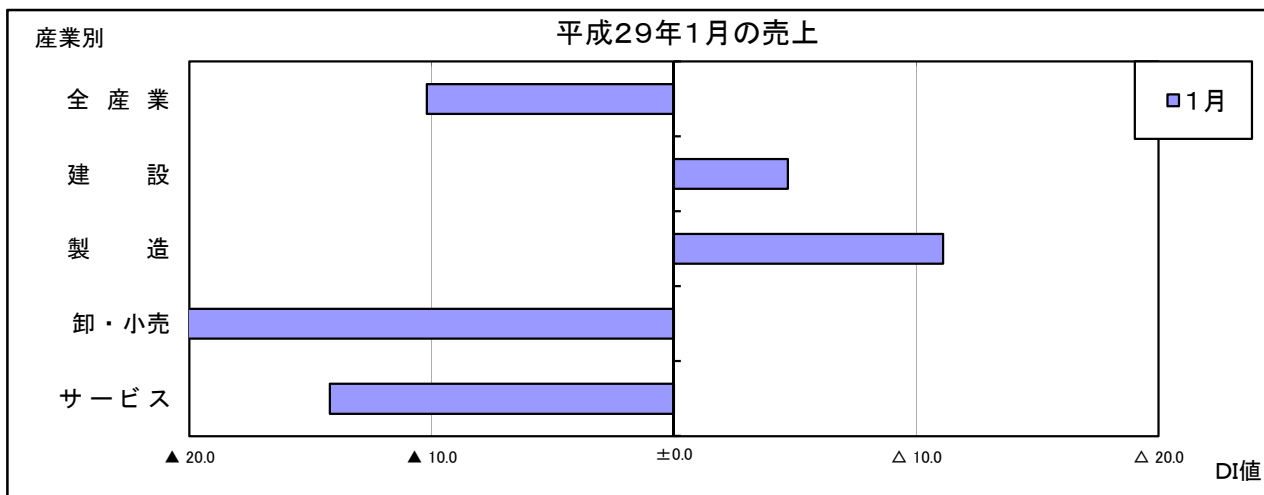
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、製造業△11.1(同▲5.5)、建設業△4.7(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲14.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲36.0(同▲12.5)、であり、マイナス幅が23.5ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.3(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が8.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲4.7(同▲11.1)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7.1(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44.0(同▲20.8)である。

平成29年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲28.5	▲22.6	▲16.6	▲16.2	▲8.0	▲10.2	▲15.3(▲6.6)
建設	▲13.0	▲22.2	▲15.7	▲5.0	▲11.1	△4.7	▲4.7(▲11.1)
製造	▲47.0	▲22.2	▲6.2	▲7.1	▲5.5	△11.1	▲5.5(▲5.5)
卸・小売	▲56.5	▲41.6	▲26.0	▲37.5	▲12.5	▲36.0	▲44.0(▲20.8)
サービス	△14.2	△6.6	▲14.2	▲6.2	±0.0	▲14.2	△7.1(△20.0)



【平成29年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が2.0ポイント縮小した。

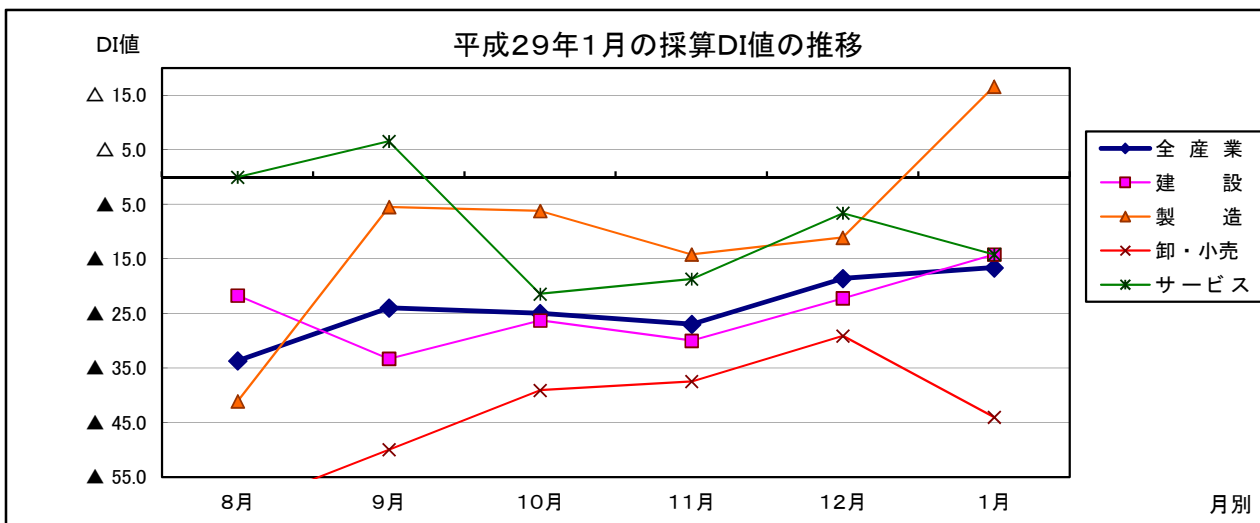
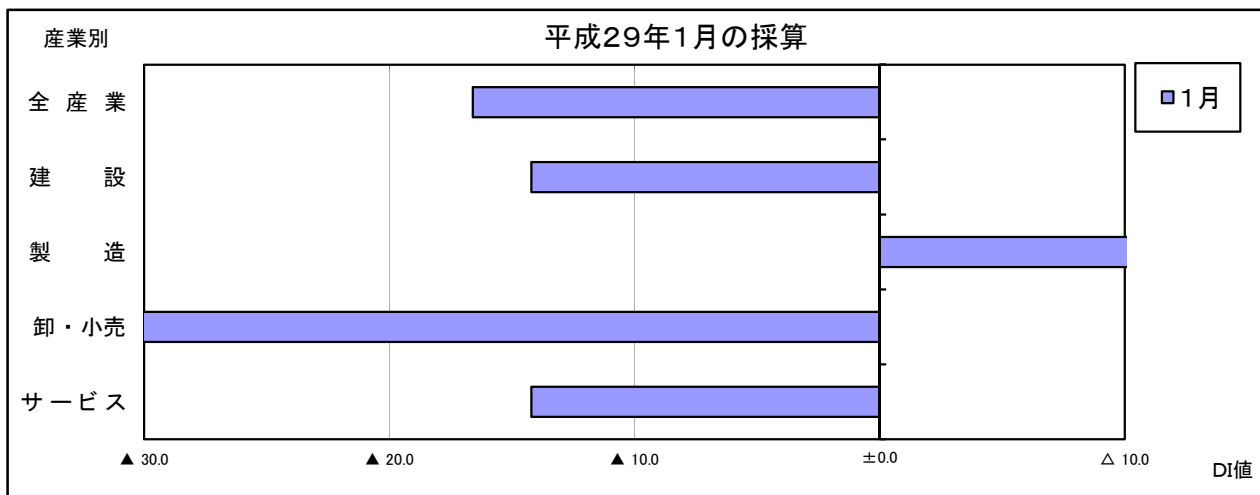
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△16.6(同▲11.1)であり、プラス幅が27.7ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲14.2(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲29.1)、サービス業▲14.2(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.2(前月水準▲13.3)であり、マイナス幅が5.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変わらない見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲33.3)、建設業▲14.2(同▲11.1)である。

平成29年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲33.7	▲24.0	▲25.0	▲27.0	▲18.6	▲16.6	▲19.2(▲13.3)
建設	▲21.7	▲33.3	▲26.3	▲30.0	▲22.2	▲14.2	▲14.2(▲11.1)
製造	▲41.1	▲5.5	▲6.2	▲14.2	▲11.1	△16.6	▲5.5(▲5.5)
卸・小売	▲60.8	▲50.0	▲39.1	▲37.5	▲29.1	▲44.0	▲44.0(▲33.3)
サービス	±0.0	△6.6	▲21.4	▲18.7	▲6.6	▲14.2	±0.0(△6.6)



【平成29年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.6(前月水準▲32.0)となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小した。

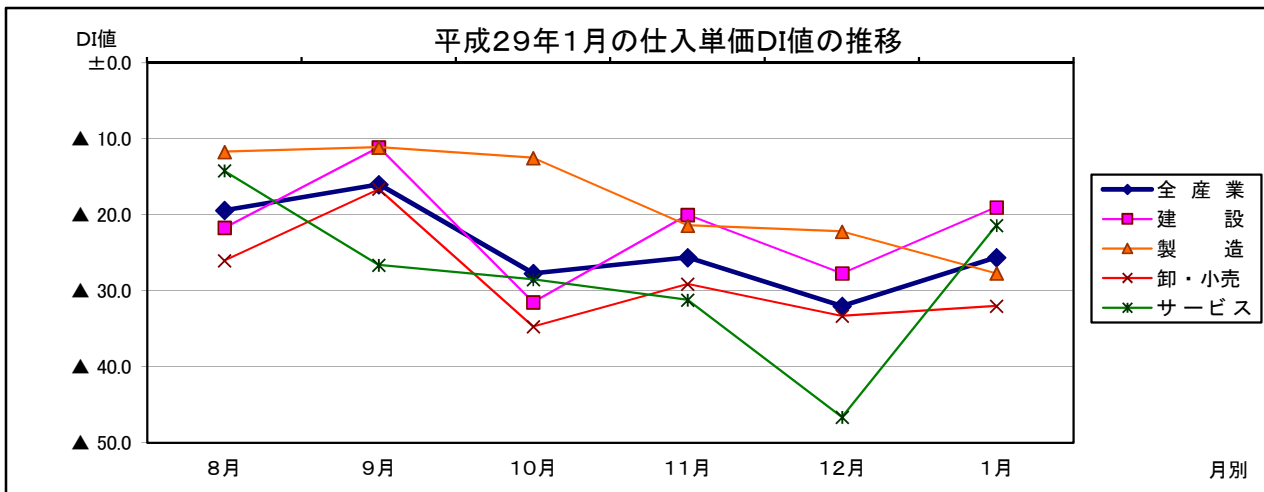
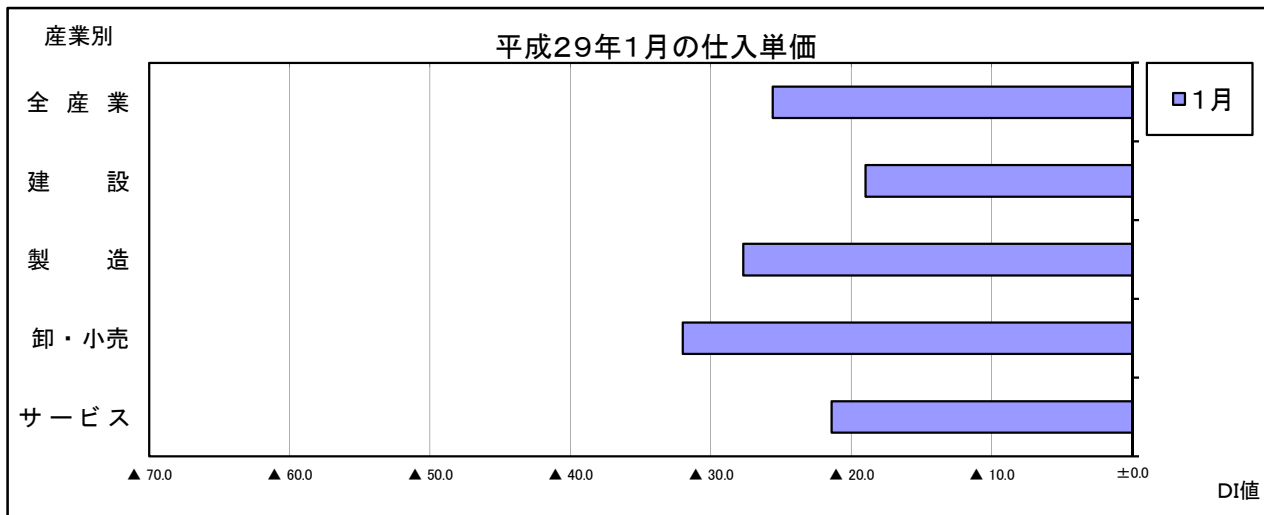
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲46.6)、建設業▲19.0(同▲27.7)、卸小売業▲32.0(同▲33.3)であり、特にサービス業ではプラス幅が25.2ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.7(前月水準▲21.3)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲22.2)、卸小売業▲32.0(同▲37.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲28.5(同▲20.0)である。

平成29年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲19.4	▲16.0	▲27.7	▲25.6	▲32.0	▲25.6	▲21.7(▲21.3)
建設	▲21.7	▲11.1	▲31.5	▲20.0	▲27.7	▲19.0	▲14.2(▲22.2)
製造	▲11.7	▲11.1	▲12.5	▲21.4	▲22.2	▲27.7	▲11.1(±0.0)
卸・小売	▲26.0	▲16.6	▲34.7	▲29.1	▲33.3	▲32.0	▲32.0(▲37.5)
サービス	▲14.2	▲26.6	▲28.5	▲31.2	▲46.6	▲21.4	▲28.5(▲20.0)



【平成29年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、 $\Delta 21.7$ (前月水準 $\Delta 20.0$ )となり、プラス幅が1.7ポイント拡大した。

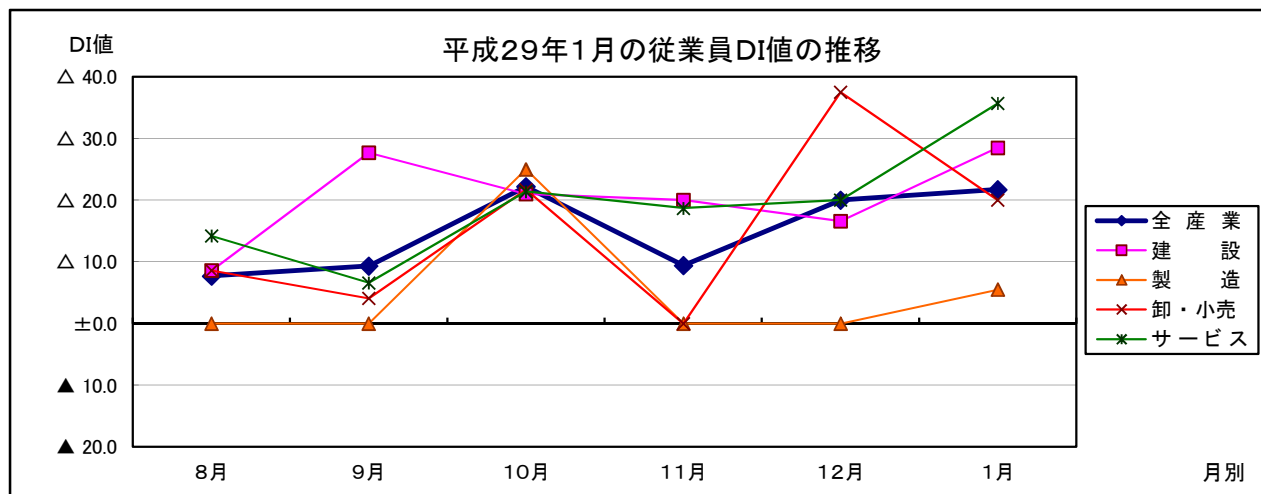
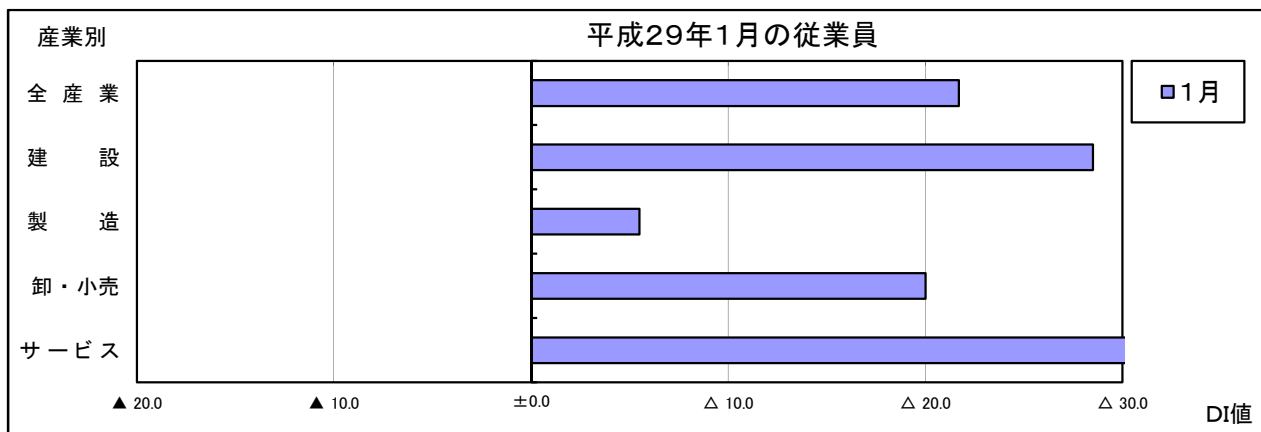
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 35.7$ (同 $\Delta 20.0$ )、建設業 $\Delta 28.5$ (同 $\Delta 16.6$ )、製造業 $\Delta 5.5$ (同 $\pm 0.0$ )である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業 $\Delta 20.0$ (同 $\Delta 37.5$ )である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、 $\Delta 21.7$ (前月水準 $\Delta 20.0$ )であり、プラス幅が1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 35.7$ (同 $\Delta 20.0$ )、製造業 $\Delta 16.6$ (同 $\Delta 5.5$ )、建設業 $\Delta 28.5$ (同 $\Delta 22.2$ )である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業 $\Delta 12.0$ (同 $\Delta 29.1$ )である。

平成29年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	$\Delta 7.7$	$\Delta 9.3$	$\Delta 22.2$	$\Delta 9.4$	$\Delta 20.0$	$\Delta 21.7$	$\Delta 21.7$ ( $\Delta 20.0$ )
建設	$\Delta 8.6$	$\Delta 27.7$	$\Delta 21.0$	$\Delta 20.0$	$\Delta 16.6$	$\Delta 28.5$	$\Delta 28.5$ ( $\Delta 22.2$ )
製造	$\pm 0.0$	$\pm 0.0$	$\Delta 25.0$	$\pm 0.0$	$\pm 0.0$	$\Delta 5.5$	$\Delta 16.6$ ( $\Delta 5.5$ )
卸・小売	$\Delta 8.6$	$\Delta 4.1$	$\Delta 21.7$	$\pm 0.0$	$\Delta 37.5$	$\Delta 20.0$	$\Delta 12.0$ ( $\Delta 29.1$ )
サービス	$\Delta 14.2$	$\Delta 6.6$	$\Delta 21.4$	$\Delta 18.7$	$\Delta 20.0$	$\Delta 35.7$	$\Delta 35.7$ ( $\Delta 20.0$ )





【平成29年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.6(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

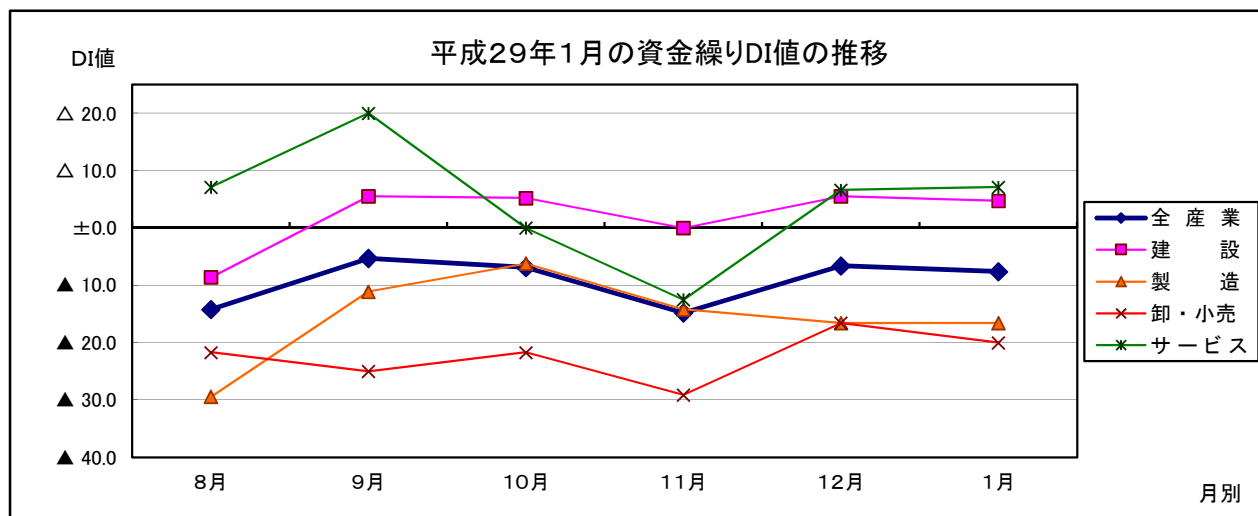
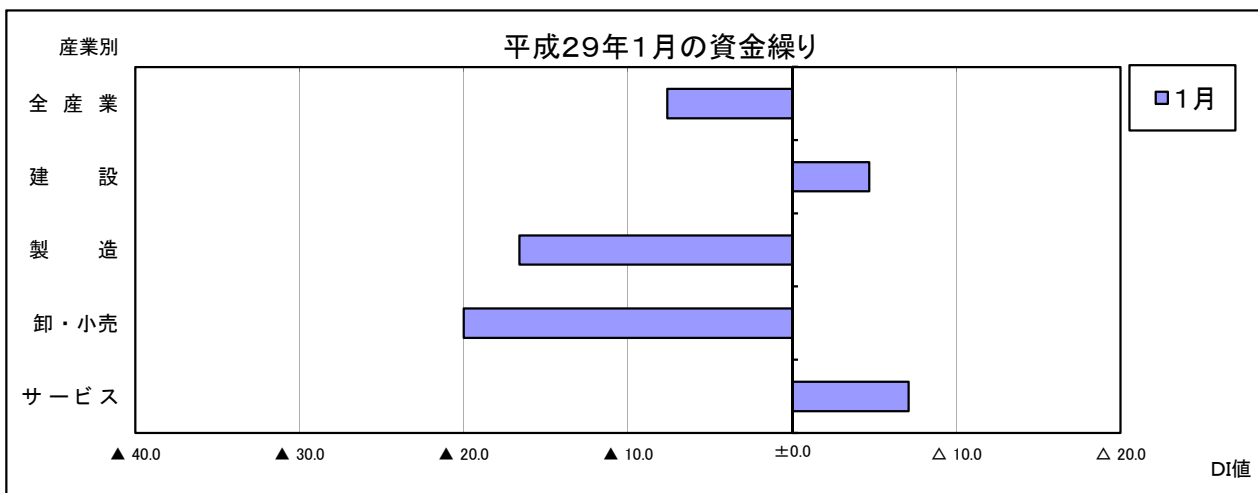
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.1(同△6.6)である。変わらない業種は、製造業▲16.6(同▲16.6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△4.7(同△5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲20.0(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.4(前月水準▲8.0)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△4.7(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲20.0(同▲16.6)である。

平成29年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲14.2	▲5.3	▲6.9	▲14.8	▲6.6	▲7.6	▲6.4(▲8.0)
建設	▲8.6	△5.5	△5.2	±0.0	△5.5	△4.7	△4.7(▲5.5)
製造	▲29.4	▲11.1	▲6.2	▲14.2	▲16.6	▲16.6	▲5.5(▲11.1)
卸・小売	▲21.7	▲25.0	▲21.7	▲29.1	▲16.6	▲20.0	▲20.0(▲16.6)
サービス	△7.1	△20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	△7.1	±0.0(△6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 10.2	▲ 15.3	▲ 16.6	▲ 19.2	▲ 25.6	▲ 21.7	△ 21.7	△ 21.7
建設	△ 4.7	▲ 4.7	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 19.0	▲ 14.2	△ 28.5	△ 28.5
製造	△ 11.1	▲ 5.5	△ 16.6	▲ 5.5	▲ 27.7	▲ 11.1	△ 5.5	△ 16.6
卸・小売	▲ 36.0	▲ 44.0	▲ 44.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 32.0	△ 20.0	△ 12.0
サービス	▲ 14.2	△ 7.1	▲ 14.2	±0.0	▲ 21.4	▲ 28.5	△ 35.7	△ 35.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 6.4
建設	▲ 23.8	▲ 9.5	△ 4.7	△ 4.7
製造	▲ 11.1	±0.0	▲ 16.6	▲ 5.5
卸・小売	▲ 44.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 20.0
サービス	▲ 7.1	▲ 14.2	△ 7.1	±0.0

【平成29年1月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	建築業界では「リノベーション」というキーワードで、リフォームを喚起する動きが高まってきている。また、新築住宅については、ZEH(ゼロエネルギーハウス)を2020年までに50%以上にするという気概がある。新たなリフォーム需要の創出やCO2削減が期待できるが、市民への認知度は未だ高くないため、ギャップを感じている。	リノベーション CO2削減	一般土木建築工事業
	見積もり依頼は多いが予算が厳しい。品質保持に苦心している。	受注増加 受注単価減少 利益減少	電気工事業
	昨年4月より電気を東京電力から東燃ゼネラルに変更したため、冬期の電気代がかなり減少し、コスト削減に繋がった。	コスト減少 電力自由化	内装工事業
	当社は地域ブランドとして努力し、その結果が徐々に現れてきたように感じられる。小規模な工務店だが、昨年はモデルハウスを造るなどして、1年を通してステップアップする事を目指している。	ブランディング 差別化	一般土木建築工事業
製造業	為替変動により、採算に影響が出ている。	為替変動 利益減少	織物業
	ステンレス材料の価格が高騰しており、機械の原価率への影響が懸念される。	仕入価格高騰(原料) 利益減少	その他の機械・同部品製造業
	月毎の売上にバラつきがあり、設備投資のターゲットが定められない状況。アメリカのトランプ政権による原油価格の変動や、それに伴うインク・紙などの値上がり等への影響が懸念される。	原油価格高騰 先行き不安	印刷業
	原料の急騰により売値とのバランスが保てず、薄利傾向にある。取引先からの発注も市場相場の様子見て控える状況が見受けられる。医療機関向けの建材受注は好調。	仕入価格高騰(原料) 利益減少	特殊産業用機械
	直近では円安と原油高の影響が懸念される。海外情勢の先行きが不透明。	為替変動 原油価格高騰	酒類製造業
	前年度の1月の売上を比較すると、今年はわずかに増加したが、これからはどんな景況になるかは予想できない。景気の乱高下の波に飲み込まれないように注意したい。	先行き不安	印刷業
	大口顧客の原価低減や、転注などもあり売上が減少。	受注単価減少 受注減少 売上減少	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	大型店出店の影響がジワジワと来ている印象。アパレル関連の低価格化が益々進んでいる感がある。昨年並みの業況を維持するのが精一杯で、衣料品関連の業況はかなり良くない。冬物在庫はかなり残している模様。	出店ラッシュ 競争激化 業況悪化(衣料関連)	婦人・子供服小売業
	昨年より正月2日開店の人出が減少している。そごう柏店撤退後、元日営業は家電量販店のみにしたが、やはり人出は少なかった。大手デパートなども3が日の休業を検討する動きがあることから、年末年始の営業のあり方を考え直す時期に来ているように感じられる。	正月営業	時計・眼鏡・光学機械小売業
	毎年正月の雰囲気も薄くなってきている中、初売りは昨年比較で9掛け強と伸び悩む。福袋の売上は前年の7掛け程度となり、人出もまばらな状況となった。中旬以降寒波到来も、衣料品の処分期のため売上も伸び悩む。逆に春物衣料は動き出している。食品も年始のご馳走メニュー需要は減少傾向で、大型バックなどは売上ダウン。成人の日を合わせた3連休も松の内と週末が重なったために購買意欲も減少した結果となる。	売上減少 天候不順(寒波)	その他の各種商品小売業
	青果物の状況は、産地から寒波による生育不足や冷え込みが続き、入荷減少しているため、高値取引となっている。消費動向は、鍋物や季節的な行事の節分など、スポット的な需要も出てきそうな状況で、色々な情報を集めながら集荷と販売に力を入れていきたい。	天候不順(寒波) 仕入価格高騰(農水産物)	食料・飲料卸売業
	パート人件費の上昇は大きく経営に影響してきている。雇用条件の改善や働き方の考えを変えなければならなくなってきている。	経費上昇(人件費)	各種食料品小売業
サービス業	4月より新規案件の受注があり売上は大幅増の見込み。ただし従業員が増える見込みで、売上回収が一ヶ月先で人件費は先払いとなるため、資金繰りが大変である。新学期の需要が活発になってきた。	売上増加 受注増加 人員増加 資金繰り悪化	その他の飲食料品小売業
	建設関係は業績が好調で職場旅行の実施希望があるものの、業務をストップできずに実施を見送る企業もある。職場旅行において、チームビルディングや宝探しなど、社員コミュニケーション強化に資するプログラム導入を検討する企業が増えている。年度末決算企業で、業績見込みめどがついた企業においては、次年度案件の引き合いが活発になってきている。	受注増加	旅行業
	仕入価格は前期に続いて少しずつ値上がりしている。不動産の需要は多少はあるが、問い合わせから契約までの時間が長くなっている。土地と低価格のマンション、中古住宅がよく動いている。	仕入単価高騰(不動産)	不動産管理業
	年度末の受注案件を消化中だが、あくまで短期的なものだと判断している。来年度の事業計画を立て直す時期にあると考えている。	事業計画策定	ソフトウェア業

## ◎原油高・為替変動

各業種より、「円高の傾向のため、採算に影響が出ている。」(織物業)、「アメリカのトランプ政権による原油価格の変動や、それにとまなうインク・紙などの経上がり等への影響が懸念される。」(印刷業)、「直近では円安と原油高の影響が懸念される。海外情勢の先行きが不透明。」(酒類製造業)、などのコメントが寄せられた。

## ◎仕入価格高騰

各業種より、「ステンレス材料の価格が高騰しており、機械の原価率への影響が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「原料の急騰により売値とのバランスが保てず、薄利傾向にある。取引先からの発注も市場相場の様子見で控える状況が見受けられる。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格は前期に続いて少しずつ値上がりしている。不動産の需要は多少はあるが問い合わせから契約までの時間が長くなっている。土地と低価格のマンション、中古住宅がよく動いている。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

## ◎受注単価減少

各業種より、「見積もり依頼は多いが予算が厳しい。品質保持に苦心している。」(電気工事業)、「大口顧客の原価低減や、転注などもあり売上が減少。」(一般産業用機械・装置製造業)、などのコメントが寄せられた。











## 平成29年1月CCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲23.0で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.2に対し、「CCI-LOBO」が▲19.8で柏の方がマイナス幅が9.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業と製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.4で柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.6に対し、「CCI-LOBO」が▲26.8で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△21.7に対し、「CCI-LOBO」が△17.6で柏の方がプラス幅が4.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.6に対し、「CCI-LOBO」が▲11.8で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業とサービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。











# 平成29年1月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.3	 ▲ 23.8	 ▲ 11.1	 ▲ 44.0	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 23.0	 ▲ 16.7	 ▲ 13.9	 ▲ 42.0	 ▲ 18.5


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.2	 △ 4.7	 △ 11.1	 ▲ 36.0	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 19.8	 ▲ 14.7	 ▲ 16.6	 ▲ 38.7	 ▲ 12.1


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.6	 ▲ 14.2	 △ 16.6	 ▲ 44.0	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 21.4	 ▲ 16.4	 ▲ 10.7	 ▲ 40.7	 ▲ 19.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.6	 ▲ 19.0	 ▲ 27.7	 ▲ 32.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 26.8	 ▲ 24.6	 ▲ 21.6	 ▲ 25.9	 ▲ 34.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 21.7	 △ 28.5	 △ 5.5	 △ 20.0	 △ 35.7
CCI-LOBO	 △ 17.6	 △ 23.7	 △ 8.6	 △ 24.1	 △ 21.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.6	 △ 4.7	 ▲ 16.6	 ▲ 20.0	 △ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 11.8	 ▲ 8.2	 ▲ 10.5	 ▲ 21.5	 ▲ 8.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(1月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年1月24日～2月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数78件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
見通し	▲14.1	▲9.5	±0.0	▲28.0	▲14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 「柏市」の業況

業況D Iははや悪化に転じる。先行きは依然として不透明感強く、幅広い圏内の動き

1月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲24.3(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲16.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲7.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲33.3)、

建設業▲23.8(同▲16.6)である。

【建設業】からは、「建築業界では『リノベーション』というキーワードで、リフォームを喚起する動きが高まってきている。また、新築住宅については、ZEH(ゼロエネルギーハウス)を2020年までに50%以上にするという気運がある。」(一般土木建築工事業、「昨年4月より電気を東京電力から東燃ゼネラルに変更したため、冬期の電気代がかなり減少し、コスト削減に繋がった。」(内装工事業、「当社は地域ブランドとして努力し、その結果が徐々に現れてきたように感じられる。小規模な工務店だが、昨年はモデルハウスを作るなどして、1年を通してステップアップする事を目指している。」(一般土木建築工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「1月毎の売上にバラつきがあり、設備投資のターゲットが定められない状況。」(印刷業、「医療機関向けの建材受注が好調。」(特殊産業用機械製造業、「前年度の1月の売上を比較すると、今年はずか

に増加したが、これからはどんな景況になるかは予想できない。景気の乱高下の波に飲み込まれないように注意

したい。」(印刷業、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「大型店出店の影響がジワジワと来ている印象。昨年並みの業況を維持するのが精一杯で、衣料品関連の業況はかなり良くない。」(婦人・子供服小売業、「昨年より柏駅前前は正月2日開店の人が減少している。年末年始の営業のあり方を考え直す時期に来ているように感じられる。」(時計・眼鏡・光学機械小売業、「初売りは昨年比較で9掛け強と伸び悩む。福袋の売上は前年の7掛け程度となり、人出もまばらな状況となった。中旬以降寒波到来も、衣料品の処分期のため売上も伸び悩む。」(その他の各種商品小売業、「青果物の状況は、産地から寒波による生育不足や冷え込みが続き、入荷減少しているため、高値取引となっている。」(食料・飲料卸売業、「パート人

件費の上昇は大きく経営に影響してきている。雇用条件の改善や働き方の考えを変えなければならなくなっている。」(各種食品小売業、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「4月より新規案件の受注があり売上は大幅増の見込み。ただし従業員が増える見込みで、売上回収が一ヶ月先で人件費は先払いとなるため、資金繰りが大変である。」(その他の飲食料品小売業、「建設関係は業績が好調で職場旅行の実施希望があるものの、業務をストップできずに実施を見送りする企業もある。職場旅行において、チームビルディングや宝探しなど、社員コミュニケーション強化に資するプログラム導入を検討する企業が増えている。年度末決算企業で、業績見込みめどがついた企業においては、次年度案件の引き合いが活発になってきている。」(旅行業、「年度末の受注案件を消化中だが、あくまで

材料の価格が高騰しており、機械の原価率への影響が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業、「原料の急騰により

値上りしている。不動産の需要は多少はあるが、問い合わせから契約までの時間が長くなっている。土地と低価格のマンション、中古住宅がよく動いている。」(不動産管理業、などのコメントが寄せられた。

【1月の景気キーワード】  
◎原油高・為替変動  
各業種より、「為替変動により、採算に影響が出ている。」(織物業、「アメリカのトランプ政権による原油価格の変動や、それに伴うインク・紙などの値上がり等への影響が懸念される。」(印刷業、「直近では円安と原油高の影響が懸念される。海外情勢の先行きが不透明。」(酒類製造業、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰  
各業種より、「ステンレス

が多いが予算が厳しい。品質保持に苦心している。」(電気工事業、「大口顧客の原価低減や、転注などもあり売上が減少。」(一般産業用機械・装置製造業、などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少  
各業種より、「見積もり依頼は多いが予算が厳しい。品質保持に苦心している。」(電気工事業、「大口顧客の原価低減や、転注などもあり売上が減少。」(一般産業用機械・装置製造業、などのコメントが寄せられた。

【C I I・L O B O Oとの比較】  
全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「C I I・L O B O O」が▲23.0

で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業



# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測 (1月速報)

調査期間：平成29年1月17日～23日

調査対象：全国の423商工会議所が2973企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIの改善は、足元で一服。先行きは、横ばい圏内の動きが続く**

1月の全産業合計の業況DIは、▲23.0と、前月から▲1.3ポイントの悪化。寒波などの天候不順に伴う客足減少や消費者の節約志向、人手不足の影響から、小売業、サービス業などの業況感が悪化した。また、円安進行による原材料価格の値上りを指摘する声が聞かれた。他方、自動車や電子部品関連を中心に生産・輸出が持ち直しているほか、住宅などの民間工事の堅調な動きを指摘する声も多く聞かれた。中小企業の景況感は、総じてみれば緩やかな回復基調が続いているものの、足元で一服感がみられている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲21.0(今月比+2.0ポイント)と改善を見込むものの「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。株高進行による消費拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に期待する声が聞かれる。他方、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、米国新大統領の政策の不透明感、為替の大幅な変動などへの懸念から、中小企業においては先行きに慎重な見方が続く。

産業界別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業で改善、その他の4業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間工事は多く、売上は安定しているものの、流通在庫の減少により、鋼材価格が上昇しており、採算は改善しない」(一般工事業)、「公共工事全体では一服感が出ているが、熊本地震関連の復旧工事は徐々に本格化している。一方、県外にも求人募集をかけているにもかかわらず、人手不足は一向に改善しない」(土木工事業)

【製造業】「取引先の輸出増もあり、引き続き業績は順調に推移している。米国の新大統領の政策次第では自社に影響があるかも知れず、動向を注視している」(自動車部品製造業)、「原油価格上昇を見込んで取引先から発注の前倒しがあったため、売上は改善した。今後の受注も確

保しており、しばらく売上は堅調に推移する見通し」(プラスチック製造業)、「原材料を輸入に頼っているため、足元の円安により、原材料価格が上昇した。急激な円安で販売価格に転嫁できず、収益が圧迫されている」(香料製造業)

【卸売業】「前年に比べて年始の売れ行きが悪く、在庫水準が上がってきており、過剰感が出ている」(飲食料品卸売業)、「秋頃からの農産物の価格高騰が落ち着き、平年並みに戻った。高値で落ち込んでいた消費者の需要も徐々に戻りつつある」(農産物卸売業)

【小売業】「消費者の需要は、二極化している。特に中間層の需要が減退し、低価格商品へと流れていることで、売上は悪化した」(衣料品小売業)、「初売り商戦では、来店客数、売上高ともに前年を下回ったが、高級ブランド品などでは売上が増加し、明るい兆しが見られる」(百貨店)

【サービス業】「寒波による大雪が続く、予約のキャンセルによる客数減少に加え、高価格メニューの売れ行きも悪く、売上は悪化した」(飲食

業)、「荷動きが活発で、売上は安定しているが、ドライバー不足やガソリン価格の上昇などが、引き続き足かせとなっている」(運送業)、「システム投資の引き合いは豊富で、売上は改善した。人手不足で受注できない案件も多いため、新年度から従業員を増やし、さらなる売上増加を図る」(ソフトウェア業)

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲24.9	▲17.8	▲20.2	▲33.1	▲38.2	▲18.9
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
11月	▲22.9	▲11.0	▲18.2	▲26.4	▲38.5	▲20.3
12月	▲21.7	▲12.7	▲19.6	▲22.5	▲38.2	▲14.6
1月	▲23.0	▲16.7	▲13.9	▲25.4	▲42.0	▲18.5
見通し	▲21.0	▲16.1	▲13.2	▲27.5	▲36.3	▲15.6